

●ごみのポイ捨て問題と教育について

Q.

私はボランティアで、イオンの周り、西新発田駅、ユニクロ、町内会のごみ拾いを行っています。しかし、最近マスク・缶・カップの殻が多すぎます。若者のマナーのなさ、ホワイトカラーのたばこの投げ捨てなど、これから的新発田、日本を危惧しています。私は企業に勤めていましたが、やはり何事も清掃、ごみを捨てない、きれいな家・会社、街が何をするにも基本だと思います。市でも「きれいな新発田市を作りましょう」を第一の市の基本として教育から取り組んでいただきたい。

（令和7年12月受付）

A.

御指摘いただきましたごみの投げ捨てにつきましては、市広報等を通じた啓発活動、ポイ捨てなど不法投棄が多発する場所への警告看板等の設置、地域の皆様と連携したクリーン作戦の実施等を通じ全市的な問題として環境美化に関する取組を実施しておりますが、御指摘のとおり、根本的な解決に至っていないのが現状であります。要因として、市の周知・啓発が市民に十分に行き届いていないことや、それに起因する市民意識の低さが考えられます。

御提案の「きれいな新発田市を作りましょう」という理念等につきましては、「新発田市環境美化推進条例」の目的として定めており、市、市民、事業者のそれぞれの責務等を明記し、様々な取組を行っていくこととしています。当市といたしましては、この条例の周知徹底に加え、市民、特にからの新発田を担うこどもたちへの環境教育として、出前授業等を通じた意識醸成が重要と考えており、今後、教育委員会と連携を図りながら、実施に向けた検討を行ってまいりたいと考えております。

一方で、不法投棄に関する市の財政負担を見る化するなど、これまでとは異なる視点から取組を行っていく必要性を感じておりますことから、引き続き、あらゆる手法を用いて市民への啓発を行っていくよう、担当課に指示をしたところであります。

（令和8年1月9日回答）

※上記の回答内容はすべて回答日時点のものであり、現在とは異なる場合があります。